

【1】A班

提案タイトル	スマホで簡単もらえる選挙
提案概要	選挙に関心がない、投票がめんどろと考えている人を振り向かせるには、スマホで簡単に出来て、何かもらえるようにしたら投票率が上がるのでは。
提案要素	(1)スマホで選挙の投票 (2)投票し終わったら、商品券や割引券がもらえる

(1) スマホで選挙の投票

スマホから投票できることは、若い人たちだけではなく、さまざまな状況で投票所に行けない方に対し、投票機会を確保するにも有効です。多くの議員が共感の声を寄せていました。

一方で、複数の議員から、ネット投票の場合、投票にあたって十分に政策を吟味しないまま投票してしまうことを危惧する声がありました。課題かもしれません。

スマホ投票を実現するには、「公職選挙法」の改正が必要です。同法の第44条に「選挙人は、選挙の当日、自ら投票所に行き、投票をしなければならない。」とあるからです。法律の改正は国会の役割です。

福知山公立大学の杉岡先生からは、高校生の皆さんに「陳情」に挑戦してもらってはどうかとの助言をいただきました。陳情というのは、憲法が保障する国民の権利としての「請願（地方自治法で議員の紹介が必要と定められています）」にならい、議員の紹介がなくても市議会に意見を提出できるように整えられている制度です。この制度を利用して、高校生の皆さんから市議会に対して、総理大臣等に公職選挙法改正を提言する「意見書」を提出するよう、「陳情（要望）」いただくのです。

受け取った「陳情」については、「請願」と同様の扱いをする場合は、議員間で協議して採択（願意のとおり取り扱うかどうか）の可否を決定します（不採択の場合もあります）。

(2) 投票し終わったら、商品券や割引券がもらえる

選挙割（センキョ割）は、一般社団法人選挙割協会が受け皿となって、企業の参加協力と学生スタッフの募集が行われ、様々な選挙で実施されています。大変興味深い提案です。

ただし、議員の中には、割引の原資に税金を投じることへの疑問の声もありました。丹波市でも投票済証明書を発行しています。それを活用したその後の割引の仕組みは、行政が主体となって行うものではなく、地元住民発信の取組として、期待したいと思います。

【2】B班

提案タイトル	若者よ！！ もっと選挙に行こう！
提案概要	投票に関する先行研究で、投票所を減らすと投票率が下がるというものがある。とすると投票場所を増やせば投票率も上がるのではないかと考えた。
提案要素	(1)投票所を増やす（移動投票所） (2)高校への投票所設置

投票所の増設、移動投票所に関する議論は、丹波市発足以来何度か行われてきました。これらの協議を

経て、現在行われる選挙については、期日前投票所、当日投票所の場所や数が決定されてきています。

しかしながら、高校生の皆さんから投票所に関してご提案頂いた(1)及び(2)の内容について、総務文教常任委員会であらためて調査研究します。

【3】C班

提案タイトル	スマホで楽々投票
提案概要	丹波市の2023年年齢別投票結果によると、10代～20代といった若者の投票率が低くなっている。そこで若者が積極的に投票してくれるような投票方法を提案する。
提案要素	(1)スマートフォンでの投票

(1) スマートフォンでの投票

スマホから投票できることは、若い人たちだけではなく、さまざまな状況で投票所に行けない方に対し、投票機会を確保するにも有効です。多くの議員が共感の声を寄せていました。

一方で、複数の議員から、ネット投票の場合、投票にあたって十分に政策を吟味しないまま投票してしまうことを危惧する声がありました。課題かもしれません。

スマホ投票を実現するには、「公職選挙法」の改正が必要です。同法の第44条に「選挙人は、選挙の当日、自ら投票所に行き、投票をしなければならない。」とあるからです。法律の改正は国会の役割です。

福知山公立大学の杉岡先生からは、高校生の皆さんに「陳情」に挑戦してもらってはどうかとの助言をいただきました。陳情というのは、憲法が保障する国民の権利としての「請願（地方自治法で議員の紹介が必要と定められています）」にならい、議員の紹介がなくても市議会に意見を提出できるように整えられている制度です。この制度を利用して、高校生の皆さんから市議会に対して、総理大臣等に公職選挙法改正を提言する「意見書」を提出するよう、「陳情（要望）」いただくのです。

受け取った「陳情」については、「請願」と同様の扱いをする場合は、議員間で協議して採択（願意のとおり取り扱うかどうか）の可否を決定します（不採択の場合もあります）。

【4】D班

提案タイトル	男性も育児休暇を取りやすい丹波市にするために
提案概要	男性の育休は取得しづらい雰囲気や周囲の理解不足ゆえに取得率が低い。そこで男性が育児休暇を取得しやすい環境作りを企業・自治体を含めた社会全体で取り組み、丹波市で女性が活躍できるような社会を作る。
提案要素	(1)中小企業を含めた企業の男性育児休暇取得率開示 (2)他企業の取組を新聞に載せる (3)くるみん、えるぼしの取得促進

一般的に、また高校生にとっても、就職の際の条件として、注目される点だと理解しました。市では、仕事と家庭の両立支援事業を行っています。皆さんの提案を、**市長に伝達**します。

(1)中小企業を含めた企業の男性育児休暇取得率開示

国では、従業員 1,000 人以上の企業において、男性育児休暇取得率開示が義務付けられています。男性の育児休暇取得率を向上させることは必要と考えますが、企業によって経営等置かれている状況は様々であり、企業側が判断されることでもあります。

(2)他企業の取組を新聞に載せる

これまでにおいて、特徴ある事例は地方新聞で取り上げられ発信されているところもあります。アピールすることは必要と考えますが、企業が判断されることでもあります。

(3)くるみん、えるぼしの取得促進

「くるみん」においては、丹波市内にも取得されている企業があります。企業努力が求められます。

【5】E 班

提案タイトル	女性も活躍できる社会を考える
提案概要	「女性議員の割合が少ない」「女性の発言する場（意見交流の場）が少ない」といった課題を解決することで女性が意見を言いやすい環境を作る。
提案要素	(1)丹波市連合婦人会の再結成 (2)女性模擬議会の開催

(1)丹波市連合婦人会の再結成

婦人会は任意の団体となりますので、行政や議会が主体となって発足するものではなく合議による自主的な結成が重要になります。

同時に提案されている女性議会（仮）と同様に、女性が意見を発信できる場の創設を狙いとされていると推察します。一つの政策課題に対して女性だけが参加し、意見を出すことができる合議体の創設は興味深いものがあると考えます。

(2)女性模擬議会の開催

共感する議員の多い提案でした。

高校生を対象とした取り組みとしては、丹波市議会では「ミライプロジェクト」を行っており、多くの女性に参加いただいています。現在の方法で続けていきたいと考えています。

事例としてご紹介いただいた島田市の例は、市が主催して「男女共同参画」のために行っています。丹波市でも「男女共同参画センター」が設置されています。女性模擬議会を行う場合、予算執行権のある市当局に対して質問や提言を行ったほうが有効です。そのためには、市議会だけではなく、市当局の対応も必要になります。

議会は議案を審査・採決する権能を持ち、行政は議会で可決された事業を執行する権能を持ち、それぞれ違った性質を持つ機関です。女性模擬議会などの開催は執行権のある市当局が関わるほうが可能性は拡

がると考えられますので、**市長に伝達**します。

【6】F班

提案タイトル	ワーク・ライフ・バランス
提案概要	就業意欲があるすべての女性が生き生きと働き続けられるよう、企業に積極的な採用・登用とそのため環境づくりを促し、また若者の視点や意見を反映し、彼ら自身が政策形成に参加する機会を作る。
提案要素	(1)女性の採用、登用の改善 (2)若者の政策形成参加

(1) 女性の採用、登用の改善

国の第5次男女共同参画基本計画（R2.12）では2025年度末までに約30%を女性が管理職に就くよう目標値が設定されています。

こうした国の指針を踏まえ丹波市においては、第4次丹波市男女共同参画計画が策定されました。丹波市の現状が、国の定める目標値に添って改善されるよう**市長に伝達**します。

(2) 若者の政策形成参加

まちづくりに参加する仕組みは、年々拡充してきております。特に、市民プラザ（ゆめタウン2F内）内の市民活動支援センターでの活動は、参加者が増加しています。

ただ、政策形成となる活動の目的は、「参加する」にとどまらず「創造する」ことが重要で、より一層の主体性が求められます。さまざまな年齢、性別、文化の集合体が自治体住民であることから、こうした多様な意見を一つの政策へと取りまとめるには一つの合議の場が必要であると考えます。参考事例として若者の政策形成の取組をしている福井県鯖江市にあるJK課が有名です。

こうした他市の事例を踏まえ、丹波市においても高校生など次代を担う若者の政策提言は必要であると考え、**市長に伝達**します。

【7】G班

提案タイトル	LINEを活用した女性が気軽に相談できる相談所づくり
提案概要	現在の相談所のイメージは、堅苦しい、対面ではうまく話せない、大事になることを避けたいという課題が挙がった。そこでSNSを活用し、遠慮なく悩みを打ち明けられ、悩みを持つ同士で話し合ったり、ただ愚痴を吐き出したり、気軽に相談できる環境を作る。
提案要素	(1)LINEを活用して相談できる相談所を作る (2)ニーズに合った相談方法をとる（事前調査、情報開示範囲確認など）

丹波市では、LINEを使ったコミュニケーションを行うことが少しずつ可能となってきました。今後、AI技術を活用してより精度の高いコミュニケーションがとれるようになるのではないかと期待し

ています。

また現在、こころのケア相談窓口を丹波市では準備しています。しかし曜日や時間があらかじめ決まっていることから、24時間365日対応のように相談者のタイミングで相談できる状況ではありません。この解決も、AI技術の導入により図ることができるのではないかと期待します。

(1)及び(2)ともに関連した内容として、**市長に伝達**します。

【8】H班

提案タイトル	ポイポイッポイ活
提案概要	政治に参加しにくい、投票は手続きや行くことが大変、めんどくさいと思う人がいる。そこでエストニアの例を参考に、電子投票ができる環境を整備し、政治のことをわかりやすく説明する機会を作っていく。
提案要素	(1)電子投票ができる環境整備 (2)投票した人にポイント付与 (3)政治のことをわかりやすく説明する機会（少年議会、学校選挙）

(1)電子投票ができる環境整備

スマホから投票できることは、若い人たちだけではなく、さまざまな状況で投票所に行けない方に対し、投票機会を確保するにも有効です。多くの議員が共感の声を寄せていました。

一方で、複数の議員から、ネット投票の場合、投票にあたって十分に政策を吟味しないまま投票してしまうことを危惧する声がありました。課題かもしれません。

スマホ投票を実現するには、「公職選挙法」の改正が必要です。同法の第44条に「選挙人は、選挙の当日、自ら投票所に行き、投票をしなければならない。」とあるからです。法律の改正は国会の役割です。

福知山公立大学の杉岡先生からは、高校生の皆さんに「陳情」に挑戦してもらってはどうかとの助言をいただきました。陳情というのは、憲法が保障する国民の権利としての「請願（地方自治法で議員の紹介が必要と定められています）」にならい、議員の紹介がなくても市議会に意見を提出できるように整えられている制度です。この制度を利用して、高校生の皆さんから市議会に対して、総理大臣等に公職選挙法改正を提言する「意見書」を提出するよう、「陳情（要望）」いただくのです。

受け取った「陳情」については、「請願」と同様の扱いをする場合は、議員間で協議して採択（願意のとおり取り扱うかどうか）の可否を決定します（不採択の場合もあります）。

(2)投票した人にポイント付与

選挙割（センキョ割）は、一般社団法人選挙割協会が受け皿となって、企業の参加協力と学生スタッフの募集が行われ、様々な選挙で実施されています。大変興味深い提案です。

ただし、議員の中には、割引の原資に税金を投じることへの疑問の声もありました。丹波市でも投票済証明書を発行しています。それを活用したその後の割引の仕組みは、行政が主体となって行うものではなく、地元住民発信の取組として、期待したいと思います。

(3)政治のことをわかりやすく説明する機会（少年議会、学校選挙）

全国市議会議長会による「市議会の活動に関する実態調査結果」によれば、令和4年中に「子ども議会」を開催した市は133市です。丹波市議会ではそうした事例も調査した上で、形式的になりがちな心配があることから、「ミライプロジェクト」として実施し、今回からは議場での発表も加えました。従って、高校生を対象として新しく「少年議会」を設けることは予定しておりません。

議会は議案を審査・採決する権能を持ち、行政は議会で可決された事業を執行する権能を持ち、それぞれ違った性質を持つ機関です。少年議会などの開催は執行権のある市当局が関わるほうが可能性は拡がると考えられますので、**市長に伝達**します。

次に、政治のことを説明する機会として、高校に出向くことには意義を感じます。丹波市議会では「出張版市民との意見交換会<井戸端スタイル>」を準備しています。これは、5人以上集まっただけであれば、いつでも高校まで伺って議員と皆さんとの意見交換の場を持たせていただくことができる仕組みです。ぜひ、「出張版市民との意見交換会<井戸端スタイル>」を活用していただけませんか？

【9】I班

提案タイトル	若者に選挙について興味を持ってもらおう！
提案概要	「若者の政治への関心の低さ・ネガティブなイメージ」という課題がある。SNSを利用した面白味のある選挙情報の発信や高校生による高校生に向けた選挙の大切さを伝えるイベント企画等により、政治や選挙を楽しめる仕組みづくりを目指す。
提案要素	(1) Instagram や Twitter (現：X) などのツールを利用して情報発信する (2) 模擬投票や出前講座などの対面イベントの実施

(1) Instagram や Twitter (現：X) などのツールを利用して情報発信する

議会としては人員的な限界もあって Facebook による情報発信が精一杯ですが、議員個人ではさまざまなツールを利用して情報発信している人もいます。ご提案いただいているように、高校生の皆さんが独自に SNS を活用した発信を行っていただければ、協力は惜しみません。

(2) 模擬投票や出前講座などの対面イベントの実施

模擬投票については、選挙管理委員会が行っています。

議会としては、政治のことを説明する機会として、高校に出向くことには意義を感じます。「ミライプロジェクト」の前段階として組み込むことは可能かもしれません。学校等との調整が必要ですので、検討課題とさせていただきます。

なお、丹波市議会では「出張版市民との意見交換会<井戸端スタイル>」を準備しています。これは、5人以上集まっただけであれば、いつでも高校まで伺って議員と皆さんとの意見交換の場を持たせていただくことができる仕組みです。ぜひ、「出張版市民との意見交換会<井戸端スタイル>」を活用していただけませんか？

【10】J班

提案タイトル	丹波市で女性が活躍するために
提案概要	プリキュアのように大切なものを守れる女性を増やす。仕事と育児の両立や人間関係に不安を抱えている女性が多い。一方で、育児や介護支援をしている企業があっても知らない若者が多い。そこで、不安を解消し、丹波市内の企業を知ってもらう。
提案要素	(1)高校で講演や就職ガイダンスを行う (2)カウンセラーを自宅に呼べるようにする

(1) 高校で講演や就職ガイダンスを行う

現在、高校生を対象にした企業紹介フェア等開催していますが、各高校での就職ガイダンス等はできていません。高校生からも、学校へ働きかけてみてはいかがでしょうか。

(2) カウンセラーを自宅に呼べるようにする

相談したいことについて、訪問していただき相談できるのは、相談者にとって安心して相談ができ効果的と考えますが、その仕組みや人材確保を考えると現状難しいと考えます。

丹波市では、「女性のための相談」等、女性が活躍できるための取組として、電話・オンラインでも相談はできます。